特集寄稿・テーマ〈同窓会に望むこと〉

吉村 和就 S42卒

多くの仲間が定年を迎え、これからは自分自身で、やりがいのあることや、やりたかった事を享受できる最高の年回りである。しかし日本人男性の平均寿命が80歳を超え、これからの20年を楽しく過ごすには、すこしばかり工夫が必要である。

本来すべての物事は周到なる準備の基に組み立てられるべきであるが、まずは多面的な情報収集からはじめるのが一番であろう。しかし昔の会社の同僚からでは、新鮮味がないし、自尊心を傷つけたり、邪魔をすることがあるだろう。(お互い様だが・・・笑い)だからと言って見ず知らずの人に聞くわけにもいかない。そんな時に最も役に立つのが東京同窓会である。

特に幅広い年代を有し、様々な業種を経験し、多くの人脈を持つ先輩諸氏は、生きているデータの宝庫である。つまり同窓会の存在意義は、同窓会活動を活発化し、いかに生きた情報を持つ仲間を増やすかにかかっている。

では、そのためにやるべきことは、まず仲間意識を強めることが有効であり、さらに会員相互の連携を強め、知的レベルを深めることが一番であろう。もちろん年一回の総会や、その後の懇親会は大事であり、これをもっと盛り上げるために、企画案を練り、開催場所、講演会、催しもの内容などの工夫が必要であろう。いままでは、マスコミ等で名を挙げた人の話も多いが、むしろ多方面に情報収集源を拡げるために、地域性のある話題が提供できる人や、趣味の世界で生きている人の話も増やし、すべての会員が参加できる機会を増やすべきであろう。むしろ、このような小集団の集まりは、総会でなくとも、適宜開催し、その成果を総会等で紹介し、さらに参加者を増やす努力も必要ではないかと考えている。

いずれにしても、今までのやり方では、やれることに限界があるので、東京同窓会を活発化するには少し思い切った提案が良いのではないかと思う、もちろんお金のある東京同窓会ではないので、いかに良いアイデアをだすかが勝負である。同じ趣味の集まり(因みに私の趣味は自作真空管オーディオや自作スピーカー作り)、小集団でのビアパーティ、歴史めぐりの同窓会ツアー、きりたんぼ会、会員の卒業した企業訪問、工場視察、さらに東京裏町めぐりなど、多くのアイデアが生まれると思う。

ぜひ東京同窓会の会員の皆さんの建設的な提案を期待したい。